

イノベーションデザイン・プラットフォーム (IdP) GAP ファンド
FAQ

Q1 対象者について教えてください。

A1 東京工業大学・慶應義塾大学・東京医科歯科大学・神奈川大学・関東学院大学・横浜国立大学・横浜市立大学の大学の教員・研究員、または学生（修士課程、博士課程）になります。詳細は公募要領を必ずご確認ください。

Q2 公募する研究開発課題とはどのようなものですか？

A2 事業化に向けて、研究機関の研究成果と事業化のギャップを埋めるため、ビジネスモデルのブラッシュアップ、試作品製作、仮説検証のためのデータ（実験結果、計算結果）等を進める研究課題です。

Q3 事業化を目的としない単なる研究や会社事業・準備（登記等）は対象ですか？

A3 対象となりません。

Q4 他の研究助成を受けている場合、応募に制限などはありますか？

A4 JST により次の重複制限が定められており、該当する場合は本件に応募ができません。
「同一の研究代表者は、START プロジェクト支援型、SCORE チーム推進型、SCORE 大学推進型、SCORE 大学推進型（拠点都市環境整備型）を同時に、申請・実施することができません。」

Q5 経営面での専門知識がないのですが応募できますか？

A5 事業化に向けては、SDC 選出による「事業化メンター」、または各大学の「事業化ファシリテーター」（担当者）が採択案件に配置されます。事業化に向けて必要な経営面の課題も一緒に検討して行きます。

Q6 将来的な事業化の際に、経営者にならなければなりませんか？

A6 必須ではありません。そのような事業化の際のご相談もメンター等と一緒に考えます。

Q7 事業の実施期間中、起業することは可能ですか？

A7 実施期間中に起業した場合、研究開発費の支援は、原則その時点で終了となります。実施期間中に起業に至る場合には、まずは各大学のご担当にご相談ください。

(6月14日追加)

Q8 外国人の応募も可能ですか。また、英語の資料等がありますか。

A8 要件を満たす研究者は応募可能です。なお、今回の事業の英語資料はございません。
恐れ入りますが公表された資料でご対応願います。

(以下6月30日追加)

Q10 6月24日開催説明会のピッチイベントで発表された方々は既にGAPファンド等の獲得経験があるのでしょうか？それともこれからGAPファンドに応募する予定の方々でしょうか？

A10 参加者は任意の申し込みであり、事務局としてはピッチに参加する以外の情報は把握しておりません。また、ピッチと公募の説明会は別個のものでございました。

Q11 公募されているIdPのGAPファンドとJSTのSCORE事業との関係はどうなっているのでしょうか？応募者はGAPファンド(IdP)とSCORE事業(JST)の両方の規定等に従い、両方に対して(例えば)申請や報告等を行わなければならないのでしょうか？

A11 SCORE事業の一環としてGAPファンドがあります。なお、同一研究者がSCOREに参加される場合の留意事項が公募要領「4. 応募制限」に記載がございますのでご覧ください。
また、必要な手続きは採択後、大学事務局が取りまとめて、JSTと対応いたします。

Q12 教員や学生がGAPファンドを通じて事業化・起業した場合、引き続き大学の教員や学生を続けることはできるのでしょうか？

A12 可能です。自らが経営者となる場合(ただし、教員は大学の兼業の条件をクリアする必要あり)や経営者を外部から招へいし経営を第三者にゆだねたうえ自らは研究開発面で参画する場合等が想定されます。

Q13 応募者の技術を事業化する場合、必ず新規に起業しないといけないのでしょうか？例えば、パートナーとなる既存の企業(大手またはベンチャー)との提携によって事業化を行う場合も対象になるのでしょうか？

A13 当該技術をもとにすでに起業してしまっている場合等、既存の会社の新規事業は対象となりません。ただし、企業との研究が進んでおり、事業を切り出して新会社で実施するような場合は可能です。

Q14 事業化の際、海外で起業する、もしくは海外の企業と提携して事業化する場合も対象になるのでしょうか？

A14 原則可能ですが、公募要領にもございますように、プラットフォームが目指すエコシステムの形成について、その趣旨を理解の上、貢献する意思を有することとあります。よって、海外での展開の場合どのような形でこれに貢献されるかを応募書類にお書きください。

また、応募にあたっては、事業化に向けて、①ターゲットユーザー、②ユーザーが抱える課題(ペイン)、③ユーザーが抱える課題を解決するための解決策、④マネタイズの方法、⑤そ

の他社会実装や事業化に向けて検討している事項や構想など、を想定したビジネスモデルを記載する必要もありますので、海外で展開の際を想定している場合、海外におけるこれらについてもご記入ください。

Q16 来年度以降も公募は行われるのでしょうか？それとも今年度の1回だけでしょうか？

A16 原資が国の採択事業のため、来年度以降については現時点では未定ですが、IdP の取り組みとして GAP ファンドを何らかの方法で継続できるよう取組みたいと考えております。

Q17 複数の提案を同じ研究者が行うことは可能ですか？

A17 可能です。ただし、事業化に向け適切に事案をマネジメントできるかといった点で審査をさせていただきます。

Q18 応募フォームの入力に際し、学内の関係者がサポートを行なっても大丈夫ですか？

A18 応募のサポートは問題ございませんが、必ず応募代表者様と役割などを確認し、行き違いや記載事項の確認漏れなど無いよう、組織内で調整をお願い関係者で合意の上、進めてください。

Q19 申込書のPDF をアップした場合、引き戻しは何度でも可能でしょうか？

A19 最後まで完了しなければ、途中で保存することが可能ですので、ファイルを差し替えることが可能です。なお、一度完了してしまいますと修正ができないのでご注意ください。また、期間中、やむを得ず完了後に修正を希望する場合には再申請となりますので、事務局宛 (mdp-gap@sangaku.titech.ac.jp) に応募者の情報等をご連絡ください。

Q20 申込書の内容を補足する図は最大ひとつのファイル、ということですが、ひとつのファイルであれば図は何枚でも可能でしょうか？

A20 はい、容量以内であれば構いません。

以上